

子育て支援員と保育士・幼稚園教諭との保育者効力感比較についての研究

—子育て支援員が効力感を持って保育に関わるための支援として—

○岡山千賀子(徳島文理大学)

松本有貴(徳島文理大学)

キーワード: 子育て支援員, 保育士・幼稚園教諭, 保育者効力感

問題と目的

本研究では, 子育て支援員の養成講座を修了した人の活動における意欲や保育者効力感に関する実態を調査し, 現職の保育士や幼稚園教諭の保育者効力感と比較検討した。どのような要素が子育て支援員の保育者効力感の向上に関係するかを明確にすることを目的とする。

我が国の保育課題と保育士不足の解消をにらみ子ども子育て支援のための「子育て支援員」の養成が2015年から始まり, 保育士の補完的な役割を担うために保育の経験を活かした人材としてその活躍が期待されている。

ところが, 子育て中の親による子育て支援員への認識研究では, 保育スキル不足が懸念され, 一方子育て支援員には親から期待されていないのではないかという「不安」が抽出された(岡山2019)。このことより, 子育て支援員が保育現場で自信を持って保育に当たるためには, 子育て支援員がどのようにして自己効力感を高めることができるかを明らかにすることが喫急な課題である。

方法

調査対象者 A県における子育て支援員研修を受けて従事している地域保育コースの子育て支援員32名。同県内の保育所・幼稚園・認定子ども園に勤めている現職の保育士・幼稚園教諭37名。全て女性であり, 年代別はTable 1の通りである。

Table 1 対象者(人)

| 年代 | 子育て支援員 | 保育士・幼稚園教諭 | | 合計 |
|-------|--------|-----------|-------|----|
| | | 保育士 | 幼稚園教諭 | |
| 20代 | 1 | 8 | | 9 |
| 30代 | 7 | 10 | | 17 |
| 40代 | 10 | 13 | | 23 |
| 50代 | 12 | 6 | | 18 |
| 60代以上 | 2 | 0 | | 2 |
| 合計 | 32 | 37 | | 69 |

調査期間 2019年11月から2020年1月までで, 全ての研究対象者には, 具体的調査内容を説明し, 同意が得られた者に質問紙調査を実施した。

質問紙の構成 本研究においては, 三木・櫻井(1998)の保育者効力感尺度に岡山(2019)の研究から明らかになった課題に関する8項目を加え作成した。

結果と考察

新たに加えた8項目を含め, 23項目で因子分析を行い妥当性を確認した。バリマックス回転後に7因子が抽出された。信頼性は充分だった(cronbach $\alpha = .90$)。

子育て支援員と保育士・幼稚園教諭の効力感を比較検討するために, 因子毎に分けて t 検定を行った。その結果, 「私は子どもにわかりやすく指導することができる。」 $t(67) = -1.226$ ($p < .01$) 「私は子どもの状態が不安定な時にも, 適切な対応ができる。」 $t(67) = -2.554$ ($p < 0.5$) の2項目で有意な差が見られた。

Table 2 指導力グループの度数分布

| | 分類 | 度数 | 平均値 | S D |
|---------------|-----------|----|------|-------|
| わかりやすい指導 | 子育て支援員 | 32 | 3.34 | 0.937 |
| | 保育士・幼稚園教諭 | 37 | 3.57 | 0.555 |
| 能力に合わせた課題が出せる | 子育て支援員 | 32 | 3.06 | 0.914 |
| | 保育士・幼稚園教諭 | 37 | 3.24 | 0.76 |
| 子どもの性格を理解 | 子育て支援員 | 32 | 3.88 | 0.707 |
| | 保育士・幼稚園教諭 | 37 | 3.95 | 0.621 |
| 不安定時に適切対応 | 子育て支援員 | 32 | 3.31 | 0.859 |
| | 保育士・幼稚園教諭 | 37 | 3.78 | 0.672 |

これらの2項目は, 因子分析によって抽出された「指導力」のグループに入っており, それぞれ現職の保育士・幼稚園教諭の方が高い平均値を示した。このことから, 自身の子育て経験を有し短期間の研修で養成された子育て支援員が, 集団の子育ての場で指導力に課題がある現状が示唆された。この結果から, 子育て支援員が保育現場で従事するときの「指導力」を支援するという課題が明らかとなった。